



SEA-Teacher パイロットプログラム 実施報告書(2019 年度実施)



筑波大学
教育開発国際協力研究センター長 礒田正美
東南アジア・台湾地域責任者 野村名可男
附属坂戸高等学校 建元喜寿
編纂(国際室 CRICED 担当) 竹中絵美

SEA-Teacher パイロットプログラム 実施報告書

はじめに

SEA-Teacher プロジェクトは、ASEAN の教育関係統括国際組織である東南アジア教育大臣機構 SEAMEO (Southeast Asia Ministers of Education Organization) が 2015 年に企画し、2016 年より実施する ASEAN 域内各国大学間交換教育実習(internship program)である。参加大学では、SEAMEO による年 2 回の推進会合のもとで交換実習を実施しており、大学間協定に応じては各国の教育実習単位にも換算されるプログラムとして、すでに通常運用されている。

SEAMEO における国内唯一の提携機関(Affiliate Member)である筑波大学には当初より参加打診があり、その窓口機関である教育開発国際協力研究センター CRICED (Center for Research on International Cooperation in Educational Development)では、その参画を模索し、人間系教育学域 川口純先生(教育開発)を 2016 年度に調査派遣した。その派遣により、国内教育実習先を確保すること、経費負担として受け入れ学生の滞在費及び国内移動費を確保すること、また派遣学生のための事前指導など授業整備が課題となることなどがわかった。その調査を受け、吉田武男グローバル教師力開発室長(当時)等、教職関係者及び教育組織とのすり合わせを進めたが、その実習が日本の教員免許法上の教育実習に該当しないなどの難しさが課題となった。

2018 年度から教育開発国際協力研究センターは本学国際室内組織となり、全学対応を一層強化する中、文部科学省でも海外教育実習の要請が高まった。幸いなことに、ASEAN 関連の JASSO 経費を担当する野村名可男国際室東南アジア事務所長(生命環境系/グローバルコモンズ)のご尽力により、実習受入校 附属坂戸建元喜寿先生とご相談が弾み、追加調査を実施し、2019 年度 CRICED 経費と JASSO 経費のもとで経費根拠を整え、教育学類(藤田晃之学類長(当時)・人間学群)・附属坂戸高等学校(田村憲司校長・生命環境系)を派遣・受入組織として 2 月に派遣・受入を実施することとなった。実施体制は、主要業務を野村名可男・建元喜寿・磯田正美が担い、事務手続きは国際室 CRICED 竹中絵美及び人間系支援室矢内理恵子が担当した。派遣準備授業は教育学類開講科目「算数数学教育教材論(現在名:海外授業研究演習)」・派遣授業は「算数数学教材論演習(現在名:海外授業研究実習)」であった。

筑波大学の性格上、学類授業は全学から履修可能であり、授業を履修した派遣者は人間学群 2 名(内教育学類 1 名)、他学類 4 名であった。受入学生はタイ・インドネシア・フィリピン 3 大学(本学大学間協定校から選出)から 6 名である。交換インターンシッププログラムとしては、SEA-Teacher プロジェクトの下、筑波大学がハブ機関として 4 大学 24 名のプログラムを実施したことになる。

2019 年度の実施成果は、本報告書に示すように、学生にとっても、また実施者側にとっても非常に有意義な実践であった。2020 年度については、本報告書をふまえて準備してきたものの、実施予算、授業枠、実施組織も確定し、本報告書を踏まえて 2020 年の展開を準備してきたものの、現状では COVID-19 による on line 授業の下では実施困難な状況にある。現在、2021 年に向け継続実施を予定し、現在も相手先大学と協議中である。本報告書を「SEA-Teacher パイロットプログラム」としたのは、今後、教育学類における教

育業務としていくに際して、関係組織で、教育分野における海外実習の意義を共有すること、必要な業務内容を共有すること、そして国内他大学における拡大可能性を願ってのことである。継続実施及び拡大に際して、本報告書を参照いただければ、たいへん幸いである。

2020 年 7 月 30 日

教育開発国際協力研究センター長 礒田正美

東南アジア・台湾地域責任者 野村名可男

附属坂戸高等学校 建元喜寿

編纂(国際室 CRICED 担当) 竹中絵美

謝辞

SEA-Teacher プログラムをパイロットとして実施し、無事に修了できたのは、SEAMEO 事務局長の Dr. Ethel、Pitchayawadi さんの熱心な指導とアドバイス、ご協力のおかげです。また受入学生の調整・指導を担当して下さった本学坂戸附属高校の教職員の皆様、実施校(コンケン大学、インドネシア教育大学、セントラルルンゼン州立大学)の各コーディネータ、Maitree 先生、Nalmol 先生、Apinya さん、Fachru さん、Regidor 先生をはじめとした教職員の皆様、これまで SEA-Teacher を実施してきた ASEAN 諸国の大学の教職員の皆様には、多くの知識や示唆を頂き、ありがとうございました。

また本学教育学類の教職員やグローバルコモンズ、国際室の皆様にも、惜しみなくお力添えいただいたこと、改めて深く感謝申し上げます。

24 名の第一期生が無事にパイロットプログラムを修了し、新たな仲間、経験、課題を得て帰国することができましたこと、ここに報告し、謝辞に謝辞にかえさせていただきます。

目次

1. 実施スケジュール	5
2. 筑波大学の参加について	7
3. 派遣学生の履修内容と事前指導について	9
4. SEA-Teacher プログラム概要	11
5. SEA-Teacher パイロットプログラム概要	11
6. パイロットプログラム実施校	12
7. 参加学生	12
8. 実習期間	14
9. 実習内容	14
10. 参加校取りまとめ・SEAMES への報告	19
11. BEVI 分析	20
12. 実習後 学生アンケート・帰国報告会(抜粋)	22
13. 実習後所管 附属坂戸高校(受入実習校)	22
14. その他	23
15. 今後の課題・提案、所管(ロジスティクス)	23
16. 実施校別 今後の課題・提案、所管	25

別紙

1. 実施スケジュール

2019 年 6 月	派遣学生募集開始
7 月	7 月～9 月 パイロットプログラム実施校別に個別オンライン会議 6 月～9 月 派遣希望学生対象オリエンテーション
8 月	8/31 派遣学生応募締切
9 月	9/3 派遣学生 6 名決定・通知 TSSP 立ち上げ準備(受入学生用)
10 月	参加校全校(4 校)でオンライン会議(第一回)
11 月	参加校全校(4 校)でオンライン会議(第二回) SEAMEO 主催 SEA-Teacher Evaluation meeting 出席(タイ・ピサヌローク)、パイロットプログラム実施校 4 校・顔合わせ
12 月	12/17-12/18 派遣学生個別面談(英語力、現地注意事項、希望渡航先、希望担当科目等確認) 12/19 渡航先決定、実習校情報(寮など)を学生に通知 本学受入学生用に Pre Departure guide を作成し、各校コーディネータに配布(待ち合わせ場所、日時、附属坂戸高校・本学概要、Wi-Fi(eduroam 準備)、宿泊施設、実習スケジュール等) 厚生労働省の予防接種関連ページ、文科省留学関連ページを学生に通知 各校受入・派遣学生決定・通知 全参加学生 BioDataSheet の作成・提出 LoA の取り交わし(電子サイン)
2020 年 1 月	1/6 学生に渡航準備をアナウンス(フライト手配、海外旅行保険、OSSMA、たびレジ登録 等) 1/17-1/20 集中講義実施(算数数学教材論)、TEXCO 入力(受入学生) BEVI 実施(渡航前) JASSO 奨学金実施前レポート提出 渡航日決定(受入校との協議による) 学校別の Letter of Acceptance 取り交わし(誰をいつ、どの学校で受入・派遣するかを記載。各校の事務手続きで使用) SEAMEO 事務局(以下 SEAMES)が Online プログトレーニングを実施
2 月	2/6-3/6 実習(日付は実習国発着日) 空港送迎等 アテンド(計 4 回) 実習先モニタリング(3 校訪問)
3 月	実習終了・学生帰国、帰国報告会、実施所管打合せ(受入校(UTSS)) BEVI 実施(渡航後)、TSSP 実施報告書提出 JASSO 奨学金 帰国報告書提出 SEAMS 報告書作成
4 月	ブログ作成・SEAMES 報告書締切 BEVI 分析

- 5 月 ブログ評価、SEAMES e-certificate 参加証
 - 6 月 ブログ再評価・再々評価(不合格者のみ) *7 月 追記
 - 7 月 SEAMES e-certificate 修了証(ブログ合格者のみ)
- JASSO 奨学金受給者のみ成績表コピーを回収し、学生交流課に提出
*7 月 追記

2. 筑波大学の参加について

SEA teacher project への筑波大学参加に向けて

SEA teacher project (以下 ST プロ) は、SEAMEO (東南アジア教育大臣機構) が実施する、東南アジア地域における教員養成課程の協調促進、質向上を目的として実施されているプロジェクトで、教員養成課程の中で重要な必修科目である教育実習を東南アジア地域内で国境を越えて行うものである。2016 年 1 月に第 1 期に始まり、2019 年までに第 8 期が実施され、参加大学、参加学生数は堅調に増加しており、2019 年の第 8 期では参加国 4 か国、参加大学 90 大学、参加学生数 419 名に達している。

SEAMEO は異なる教育・研究分野における独自のミッションを持った 26 のセンターを東南アジア 9 か国に有し、26 のセンターが様々なプロジェクトを実施し、SEAMEO 事務局 (SEAMEO secretariat) はその統括組織として機能している。2016 年に当時の SEAMEO 事務局長 Dr. Gatot (事務局長任期: 2015-2019) により、東南アジアにおける将来の教育の方向性を見据えた 7 つの重点項目 (SEAMEO 7 PRIORITY AREA) が提示され、26 のセンターは 7 つの重点項目に沿った事業活動を推進している。



SEAMEO's Seven Priorities

1. Promoting early **childhood care and education**
2. **Addressing barriers to inclusion** and
3. Preparing schools leaders, teachers, students and local communities towards **resiliency in the face of emergencies**
4. Promoting **technical and vocational education and training (TVET)** among learners and their parents
5. **Reforming teacher education** and make teaching profession a first choice
6. Harmonizing **higher education and research**
7. Adopting a truly **21st century curriculum**

A New Education Agenda:
SEAMEO's Seven Priorities

2016 年に SEAMEO 事務局によって提言された 7 つの重点項目 (SEAMEO 7 PRIORITY AREA)

7 つの重点項目のうちの 5 番目が「Revitalizing Teacher Education」となっており、SEAMEO 事務局は ST プロを傘下のセンターによる運営ではなく、SEAMEO 事務局が直接実施するフラグシッププロジェクトとして位置付けている。本学は、日本国内唯一の SEAMEO アフィリエイトメンバーとして、TSUKUBA-SEAMEO シンポジウム開催など、これまで多くの貢献をしてきたが、ST プロのさらなる質向上を目的として本学に対して SEAMEO 事務局から ST プロへの参加依頼があった。一方、本学では、国内初等中等教育課程における外国人子弟の増加に伴う教員養成課程の国際展開、本学附属坂戸高校における SGH、WWL 事業推進に伴う東南アジア諸国との連携強化が急務となっている。こういった現状を鑑み、まず、パイロット事業として 2020 年 2 月に試行的に実施することとした。交流相手先としては、本学と交流協定及び実質的な学生交流活動の実績のある、コンケン大学 (タイ)、インドネシア教育大学 (インドネシア)、セントラルソン州立大学 (フィリピン) とし、各大学から 6 名の学生を選抜し、双方向で実施することとした。さらに、コンケン大学には本学の SEAMEO 対応を担当する CRICED (Center for Research and International Cooperation in Educational Development, 筑波大学教育開発国際協力研究センター) の海外事務局が設置されており、本学とはさまざまな国際共同事業を推進している。また、コンケン大学は東南アジア地域に

おける教員養成の拠点を目指す IRDTP (Institute for Research and Development in Teaching Profession for ASEAN) が設置されており、教育担当副学長である Prof. Maitree Inprasitha のリーダーシップのもとに本事業に対する全学的な協力を得ている。

今後、パイロット事業により、学生と教育組織に対する効果及び準備すべき点などを明らかにすることで、本学および日本の他の高等教育機関の ST プロへの参加を円滑に進めることが期待される。パイロット事業の結果については現在解析中であるが、参加大学、参加学生による事後評価アンケートからは、満足度の高い結果が示され、既存の ST プロでは得られない効果も得られたとの意見もあった。パイロット事業の結果に関する詳細な解析については、ST プロ参加全大学が参加し開催される ST プロ Evaluation Meeting (2020 年 11 月インドネシア・マラン開催予定) にて参加大学、SEAMEO 事務局に対して口頭発表の形で共有する予定である。

筑波大学
国際室
東南アジア・台湾 地域責任者

グローバルコモンズ機構
国際交流支援部門 部門長

野村 名可男

3. 派遣学生の履修内容と事前指導について

教育学類開講「算数数学教材論」及び「算数数学教材論演習」

授業担当 人間系教授 礪田正美

令和元年度(2019)に SEA-Teacher 派遣学生(outbound)が必履修した授業は教育学類開講「算数数学教材論(2 単位:以下、事前指導と呼ぶ)」及び「算数数学教材論演習(1 単位:以下、実習と呼ぶ)」である。2018 年計画時に科目名変更が間に合わなかったために、科目概要を変更して開講され、派遣先でタイ・コンケン大学 2 名、インドネシア・インドネシア教育大学 2 名、フィリピン・セントラルルソン州立大学 2 名の計 6 名が履修した。内訳は教育学類 1 名、心理学類 1 名、国際総合学類 3 名、社会工学類 1 名であり、教職履修者 1 名、外国人 1 名であった。事前指導に定員はないが、実習にはグローバルコモンズ野村先生の JASSO 奨学金枠並びに附属坂戸高校の実習受入枠(Inbound)の都合がから 6 名であり、通常履修に加えて 6 月に募集し、9 月に面接し選考された。事前指導の履修者も結果として 6 名であった。

1. 事前指導

事前指導科目は、1 月 17 日(金)および 20 日(月)に集中で実施された。授業担当者は礪田であり、協力者は Teh Kim Hong (SEAMEO RECSAM)先生であり、授業の使用言語は英語である。その目的は、教材研究とは、内容に目標を埋め込む行為であることを知り、自ら教材研究し、指導案をかけるようになること、模擬授業で相互に共同的に深めあう習慣を得ること、よい授業づくりへの批判的検討視野を醸成することである。特に Teh 先生は、指導案作成およびマイクロティーチング協議、及び各議論時のまとめで貢献された。

◆1 日目、1 月 17 日の内容

教師にとっての授業の目標、生徒にとっての学習課題、何が既習で何が未習かを知る意図から授業研究ビデオ(小学校 2 年生)を視聴した。「なぜ」を問うことを求め、「なぜ」を問う視点には、教師がなぜそうしたのか、生徒がなぜそうしたのかがあり、そのなぜを通して既習、未習が見分けられること、そこに教師の意図としての目標があり、生徒にとっての学習課題があることを確認した。特に新教育課程の三本柱、並びに「自ら学び自ら考える子ども」をいかに育てるか、資質・能力の育成が求められる背景を話題にして、日本の先導的な目標論の存在を確認した。

次に小学校 1 年算数教科書英語版を利用し、先のビデオでの「なぜ」に答える内容が、1 年生で学習されていること、すなわち既習をもとによく育てられた生徒であることを確認するとともに、数字の導入から、たしざん1とひきざん1までの内容を「なぜ」を問い回答を協議しながら読解し、教科書内容の目標を読み取る行為を体験した。

最後に指導案のフォーマット、板書指導案のフォーマットを確認し、インタラクティブに展開する授業づくりの方法を確認し、残りの 1 年生教科書内容から、指導案を作成することを宿題とした。

◆2 日目、1 月 20 日の内容

土日 2 日間をかけて準備した各自の指導案、教材・教具を前提に、マイクロティーチング 30 分、協議 30 分という時間枠で、全員が提案授業を発表し協議した。発話の仕方、問いの出し方など、伝わらない

内容については、途中でも介入して再考を求めた。

指導案不十分な者 2 名、教具の工夫に頼る者 2 名、準備がよくなされて、途中介入する必要なく安心して授業をみとれる者 2 名であった。

2. 実習

実習は、コロナウイルス蔓延以前に実施された。それぞれの概要は、実習状況調査に赴いた野村先生に報告を委ねる。

特に実習の評価は、帰国報告及びアンケート、野村先生の調査をもとになされた。事後アンケートからは、事前指導が効果的であったことが確認された。

3. 課題

参加学生のアンケート結果にみるように海外実習として事前指導、実習ともに好評であった。課題は次の点である。

◆3 年生以上で 2 月派遣、教職課程という SEA Teacher 内規と関連した課題は次の 3 点である。

課題 1. 本学の派遣学生の学年次

3 年次 2 月期は卒論、就職活動が始まる時期であり、3 年次の希望者はなく、2 年生の単位履修者を選考した。

課題 2. 教職単位履修の有無

本学には教員養成学部はなく、指導案作成などは 3 年次の履修内容であり、2 年次までには、教職単位履修学生でも教育原理、教育心理などに限られた履修段階である。

課題 3. 教育実習には該当しない

東南アジア内では協定により、教育実習に数えられるが、日本の免許制度では、日本の教育課程を実施する学校での実習のみが教育実習に該当する。

◆実習を希望する学生が必ずしも履修できない問題と関連して次の 2 点がある。

課題 4. 教育学類生の履修困難

教育学類生は約半数が小学校免許を取得するため、2 月ではそれ以外の学生のみが履修可能となる。

課題 5. 他学類生の履修困難

他学類生で教職未履修の背景には、上限取得単位数の問題があり、そのために履修申請が遅れる学生が 2 名いた。JASSO 奨学金取得には、単位履修が必須である。

その他、安全上の処置の徹底、単位履修でありかつ学生が自腹で渡航するため自由行動は認められないことの徹底などが課題である。

4. SEA-Teacher プログラム概要

SEA-Teacher は 2016 年から SEAMEO (東南アジア教育大臣機構) が主催している東南アジアの国境を越えた教育インターン*プログラムである。国境を越えて教育インターン* を実施することにより、教員養成課程の全体的な底上げを図り、東南アジアの教員の質向上を目指す。今回 (2020 年 2 月)、日本の大学が初めて参加することから、通常プログラムをベースに、実施校選定や参加人数等条件を調整したパイロットプログラムとして実施した。

*実施内容は「教育実習」だが、教員免許条件と誤認する恐れがあるため、「教育インターン」とする。

5. SEA-Teacher パイロットプログラム概要

① パイロットプログラム

本学学生 6 名 (以下、派遣学生) を教育学類が開設する「算数数学教材論演習」として、予め指定・調整した 3 校 (具体的な実施校は下記) に 2 名一組で派遣した。当該科目は、「算数数学教材論」も必ず履修し、そこで教授法等を学ぶ。担当教員は、両科目ともに礒田正美人間系教授。派遣先では各受入校が企画した実習に参加、その実施内容は各校に一任した。

同様に、本校では実施 3 校から 2 名ずつ計 6 名の学生を、短期研修プログラム (通称 TSSP、別紙: TSSP 開設届)* 実習生 (以下、受入学生) として、人間系が受け入れた。受入学生は、SEAMEO シンポジウムに参加 (東京キャンパス)、附属坂戸高校にて研究会参加や教育インターンシップを 3 週間行い、その後、つくばキャンパスにて課外学習や総括を行った。なお本実習は受入・派遣ともに教員免許要件の「教育実習」には該当しない。

受入・派遣ともに、参加学生は実習実施前後に BEVI (オンライン分析ツール: <http://jp.thebevi.com/>) ** を実施し、その成長や変化を諮った。

*TSSP 名称は「海外教育インターンシップ SEA-Teacher プログラム (International Education Internship SEA-Teacher program)」。国際室担当者が必要書類を作成し、人間系エリアコモンズに提出。同部署から担当部局に提出。

**2020 年度の BEVI 契約は継続決定。2021 年度契約は予算の都合から、困難との見通し。(SGU 寺沢氏より連絡)

② パイロットプログラム実施における本学の目的

日本国内の初等中等教育課程では外国人子弟の増加しており、国内の学校に通う外国人児童生徒への教育を省察することが目的。

- 1) 教員志望の学生に、海外での教育実習参加の機会を提供する (英語実習の機会を提供することで国際的視野を育成し、文化的多様性を認め、柔軟性に富んだ教育関係人材、教員を養成する)
- 2) 文科省が実施している WWL (ワールド・ワイド・ラーニング コンソーシアム: 本学附属坂戸高校も参加) における「教員養成課程の国際化」に貢献する。
- 3) 学習環境や機会の相互提供を通じ、グローバル教員養成課程を整備する。
- 4) 相互交流による教育技術と教育学研究の共有化を促進する。

6. パイロットプログラム実施校

奨学金やこれまでの協同研究や交流経緯から、既に本学と協定のある下記の大学間で実施した。
(各校から2名ずつ3校に学生を受入・派遣し、計6名で実習実施)

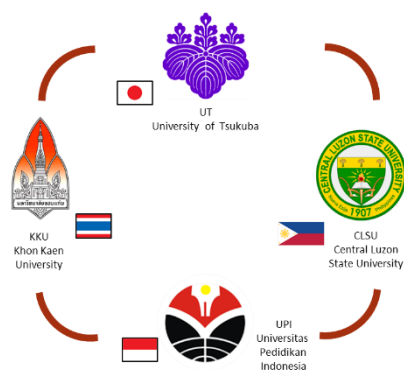
- ☐ コンケン大学(タイ/ 以下 KKU)
- ☐ インドネシア教育大学(インドネシア/ 以下 UPI)
- ☐ セントラルルソン州立大学(フィリピン/ 以下 CLSU)
- ☐ 筑波大学(日本)、附属坂戸高等学校

A Proposal for a Pilot Project for SEA teacher with University of Tsukuba

Improvement of teacher training program by comparing activities offered by HEIs in different countries

Nurturing a teacher with multicultural understanding by providing opportunities for teach training in different countries

Contribution to SEAMEO priority No.5 'Revitalizing teacher education'



- Teaching practice for pre-service teacher 1-month around February 2020
- Nominate 6 students from each university (2 students bound for each country)
- VISA is required for Japan-bound students. UT will prepare documents for application of VISA in category of 'temporary visit' and send to UPI, KKU and CLSU
- Host university covers expenses for accommodation and local transportation for inbound students
- Students (or home university) covers expenses for international flights
- BEVI (a survey tool) will be used to assess students personal growth through participation in the pilot project
- Participation in evaluation meeting on November 2019 (@Pibulsongkram Rajabhat U) and registration for the program on February 2020
- Preparatory meeting among 4 universities October, 2019
- Sharing outcome of the pilot project with other SEA teacher HEIs in evaluation meeting 2020
- Establishing a network with Japanese universities affiliated with SEAMEO and call for participation in SEA teacher project
- Arrangement of preliminary interview between host university and inbound students
- Registration for the program during evaluation meeting on Nov, 2019.

7. 参加学生

人数: 実施規定(以下 LoA)により受入・派遣人数は6名ずつ、同数とした。

派遣人数:6名(2名ずつ3校に派遣)

受入人数:6名(2名ずつ3校から受入)

学年: 2年次単位取得者以上(学部生)

専攻: 社会・国際学群 国際総合学類

理工学群 社会工学類

人間学群 教育学類、心理学類

人文社会科学学部 英語専攻、社会・人類学専攻

経営学部 観光・ホスピタリティ専攻

教育学部 数学専攻、化学専攻、価値教育専攻、総合初等教育専攻

実習科目: 数学、英語、体育、化学、生物、道徳

① 派遣学生

教育学類 算数数学教材論(2単位)、算数数学教材論演習(1単位)の授業の一環として派遣した。 ※教員免許取得のための教育実習に該当しない。

1) 募集告知

2019年6月末～8月末まで募集した。募集方法は、ポスター掲載(中央図書館、人間系棟)、チラシ配布(留学説明会、中央図書館、人間系棟)、CRICED ウェブサイト、グローバルコミュニケーションズサイト、大学 Facebook、大学 Twitter、TWINS である。オンライン告知が最も有効(アンケート結果より)だった。(別紙:ポスター)

2) オリエンテーション

- ☐ 6～9 月、派遣希望学生を対象に募集オリエンテーションを行った。グループ、個別あわせて 18 名の学生が参加した。内容は下記の通り。
 - プログラムの概要(実習目的、渡航先、実習内容、実習科目、旅費・費用・奨学金、渡航時期、本学の授業科目、現地情報(気候、風土、衛生、ネット環境 等))
 - たびれじ、OSSMA、海外渡航届の登録、海外渡航保険の加入が必須であること*
 - 教職員の引率がないこと
 - 当該プログラムは今回が日本でも初めての試み(パイロット)であること
 - ブログ作成が必須であること
- ☐ 12 月、渡航先決定のための個別面談兼個人オリエンテーションでくれぐれも安全と健康に気を付けることを伝えた。
- ☐ 渡航先決定時、厚生労働省の予防接種関連ページ、文部科学省留学経験者ページ(とびたて)を学生にメールで通知した。

*たびれじ、OSSMA、海外渡航届、海外渡航保険の登録確認として 1 月に写真を提出させた。(保険についてはクレジットカード付帯を希望する学生については条件等を確認することを再度アナウンスし、磯田先生・野村先生に相談のうえ、了承)

3) 応募・締切

応募方法は CRICED サイトに掲載告知した。2 科目の履修登録以外の応募条件は設けず、希望者は 8 月 31 日までに下記 3 点をメールで提出。8 名の応募があった。

- ①参加申込書
 - ②2018 年度の成績証明書(1 年生の場合は 2019 年度春期の成績証明書)*
 - ③TOEFL ITP スコアシート(または他の英語検定スコアシート。TOEIC を除く)
- *②は奨学金支給の確認用に回収した。

4) 選考

選考は提出書類をもとに、秋 C 学期の授業の有無や成績評価(奨学金支給対象か)を考慮し決定した。渡航決定者には安全面や実習中の注意事項、写真・動画の二次利用等を記載した誓約書をあらかじめ作成し、提出を依頼した。

5) 奨学金

派遣学生には渡航費用のサポートとして【JASSO 奨学金(旅費なし)】【はばたけ! 筑大生】の奨学金を充当した。学生の成績評価によって【JASSO+はばたけ】、もしくは【はばたけ】のみを利用し、合計金額は一律 10 万円/名とした。受入学生には奨学金を支給しなかった。

備考: 渡航記録として、往復航空券半券を提出。【JASSO 受給者】は各所属支援室に【はばたけのみの受給者】は人間エリア支援室に提出した。

② 受入学生

学生の選考は各実施校に一任した。受入学生には安全面や実習中の注意事項、本学における情報セキュリティ、写真撮影時の注意事項、写真・動画の著作権、写真・動画の二次利用等を記載した誓約書をあらかじめ作成し、提出を依頼した。

8. 実習期間

2020/ 02/ 06- 03/ 06

LoA に基づき、実習日は渡航日含む 30 日間とした。これは ASEAN 諸国が VISA なく渡航できる期間に基づいている。(日本は滞在期間に関わらず、VISA が必要)

9. 実習内容

実習内容は、プログラム目的の認識を再度統一確認したうえで、各受入校に一任した。
(別紙:各校の実習スケジュール)

① 受入時のアテンド

1 ヶ月の受入期間中、LoA に基づく空港の往復送迎を含め、4 回のアテンドを行った。

- ☐ 成田空港→実習校(坂戸附属高校): 空港出迎え。入居サポート。
- ☐ 実習校→東京キャンパス: 通勤時間の電車移動を考慮。
- ☐ 実習校→つくばキャンパス: 退去サポート含む。
- ☐ つくばキャンパス→成田空港: LoA に基づく空港送迎。退居サポート。

受入実習の様子





派遣時の様子

KKU (タイ)



UPI (インドネシア)





② モニタリング

実習中、当該プログラム担当教職員*が各校に伺い、学生および担当教職員にインタビューをし、モニタリングを行った。これまでも SEA-Teacher プログラムを担当してきた UPI 担当者から「コーディネータによるモニタリングは初めて。改善点や課題が見つかりやすくなるため、モニタリングする側、される側両方にメリットがある」という評価を得た。また実習中の学生に会うことで、生活環境や実習内容など、一緒に実習に参加している他学の学生も交え、率直な話を聞くことができた。

*野村准教授 (KKU、CLSU 訪問)、竹中国際室職員 (UPI 訪問)

派遣先モニタリング確認事項：

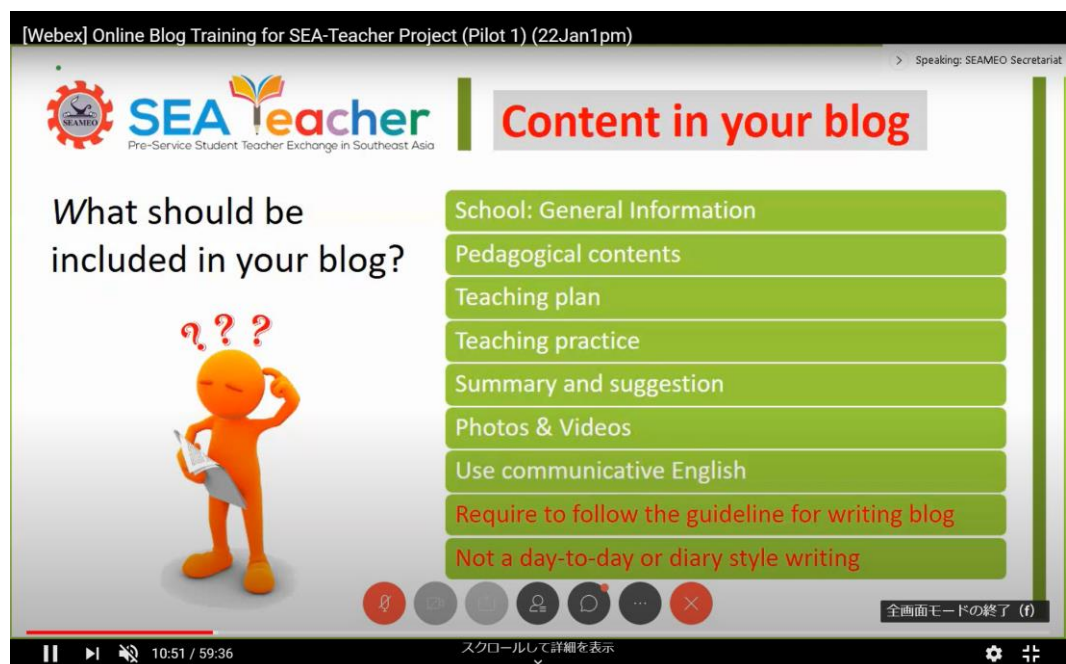
- ① 受入校では SEA-Teacher がプログラムとして、広く知られているか
- ② 受入校の先生の英語力
- ③ プログラムはワークショップ中心かそれとも座学中心か？（受身の学生でも参加に支障ないか？積極的な学生のほうがいいか？）
- ④ これまで SEA-Teacher に参加した学生のその後の進路
- ⑤ これまで SEA-Teacher に参加した学生が、留学生として戻ってきた実績
- ⑥ SEA-Teacher 以外の大学が実施しているプログラムに参加できるか？
- ⑦ 受入校の国の文化を知るプログラムがあるか？
- ⑧ 受入学生が事前に勉強した方が良いと思われる事項
- ⑨ 派遣しないほうが良いと思われる学生の例（今回派遣された本学学生が知らなかった東南アジアの教育課程では常識事項 等）
- ⑩ 派遣された本学学生の質（コミュニケーション力、基礎知識、態度 等）
- ⑪ 寮の設備（キッチン、部屋、シャワー、トイレ、ランドリー、カフェテリア、周辺店舗、WiFi など）
- ⑫ 受入校での SEA-Teacher プログラムに対する熱量（やる気満々な実施か、片手間な実施か）

③ ブログ

SEA-Teacher に参加する全学生は、英語ブログによる実習レポートの作成・公開が義務付けられている。そのため、参加決定時に、写真等の個人情報を含むブログ作成に際して、本人の了解を得た。ブログ作成方法、記載すべき内容、注意事項については、SEAMES が 2020 年 1 月、学生を対象にオンラインセミナーを実施した。同セミナーは、現在でも録画動画を視聴可能である。学生が作成したブログは、実習終了後、各受入大学が評価した。評価後、本プログラム参加のディプロマ(修了証)が本人に渡され、特に優秀だったブログについては Evaluation mtg で表彰されることになっている。

SEA-Teacher サイト(学生ブログ URL 掲載): <https://seateacher.seameo.org/>

ブログトレーニング動画:<https://youtu.be/Jl4ZkQU1n3Y>



派遣:KKU(タイ)

<https://seameoblogenergy.water.blog/>



conclusion about my lesson 5

Thank you a lot for reading my trivial blog. Finally, it is time that I wrote the last post as a summary! + some suggestion). 5-1 Purpose of practicum It is only once that I went abroad before participating in this program. I went for a trip in Guam through 4 days. But now I'm back to my school.

<https://seamemo.water.blog/>

Religious education in Thailand

■ suzukamatsumoto ■ 2月 28, 2020 ■ Uncategorized

In this article, I will talk about religious education in Thailand.

In Japan, the separation of religion and policy that politician and government are banned for supporting a certain religion as a nation. But in Thailand the situation is quite different. In Thailand, Buddhism is a state religion, and education is provided for Buddhism even at normal schools.

I will introduce how religious education is conducted.

Morning ceremony

As I mentioned a little in the second article, the students pray to the Buddha at the morning ceremony each morning. Everyone faces in the same direction, join hands and chanting sutras. I heard from a student at Khon Kaen University that it is customary to recite sutras in every school.



派遣:UIP(インドネシア)

<https://brianseameo.water.blog/>

Teaching Plan #3

■ brianseameo ■ Uncategorized ■ February 27, 2020 ■ 1 Minute



Teaching Plan for Week 3

Teaching Plan #3 is to be used on the 2nd and 3rd of March. These will be the last two days of my teaching and will not have any new content. Instead, these classes will be used as a review for the student's exam happening the following week. Thus, there is not much to say about this teaching plan.

<https://kichintoseameo.water.blog/>



How do Indonesian teachers teach Mathematics?

Before I taught Mathematics to students, I observed how an Indonesian teacher teaches it in class. My teacher's name is Ms. Maya and she knows well how to teach Mathematics. Observing her teaching way, I understand how to teach Mathematics in class. On this page, I will introduce how she teaches Mathematics in class.

Contents

1. Teaching methods used by teachers
2. Teaching and learning materials and innovation used in classrooms

派遣:CLSU(フィリピン)

<https://seateachertraining.travel.blog/>



summary & Suggestion

To summarize, the purpose of the practicum was to make students understand the content of the subject. It is hard to measure whether they understood the content or not, but one way to visualize the understanding is giving the test covering the content. Thus, I gave students the performance task at the end of the practicum. It made it clear that the content surely met the need for the lesson.

Because I had four teaching practice days, I made the procedure of practicum as follow:

Day 1	Teaching Lesson 1-3
Day 2	Teaching Lesson 1-4

<https://seateacher20202philippines>

maorisato.home.blog/



Where did you teach ?

USHS-Universal Science High School- I was in Universal Science High School in CLSU (<https://clsu.edu.ph/>).

続きを読む →

招待者 : さとうまおり
2020年3月29日

Where did you stay?

RSTC hostel We stayed RSTC hostel located inside CLSU. The hostel is very close to the school. There are single.

続きを読む →

招待者 : さとうまおり
2020年3月23日

VISA

招待者 : さとうまおり
2020年3月23日

受入:KKU(タイ)

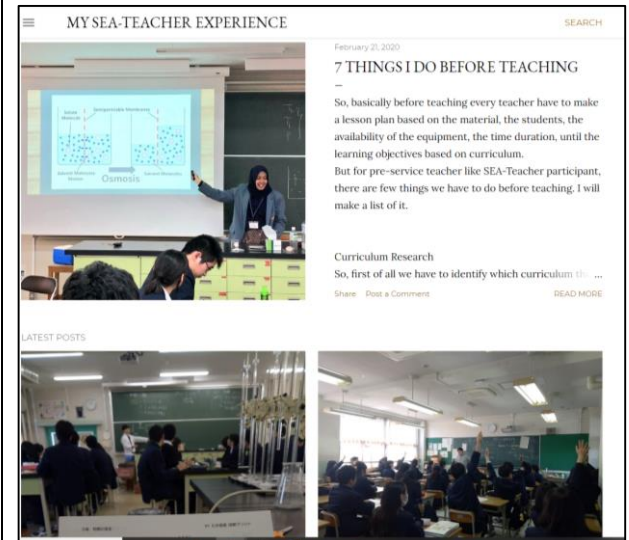
<https://tryteacher.wordpress.com/>



受入:UIP(インドネシア)

<https://zuldhanty-seateacher.blogspot.com/>

<https://echnyan.wordpress.com/>



受入:CLSU(フィリピン)

<https://itsmekenly.wixsite.com/mckenlycordero>

<https://jackforreal47.wixsite.com/>

kriselpilotbatch



10. 参加校取りまとめ・SEAMES への報告

通常プログラムでは SEAMES が参加校の取りまとめを行う。しかし今回はパイロットプログラムのため、実習準備より、参加校の取りまとめを本学が行い、情報収集、資料作成依頼、締切の徹底、回収、提出など、SEAMES 対応の窓口業務を行った。

① 実習準備資料

Bio Data Sheet (参加学生の個人調書)、Placement 資料(各学生の実習科目、学年、トピックなど)を作成・取りまとめ・提出。

② 実習報告書類

SEAMES が作成した下記 6 件の報告書類を提出した。当初、報告書提出締め切りはプログ

ラム終了の 3 月末だったがコロナウイルス感染拡大防止措置が各国でとられたことによる配慮から、4 月末に延長した。同じくブログ作成締め切りが 4 月末に延長したことから、ブログ評価フォーマットは 5 月に届き、同月末がその締め切りとなった。

下記の報告書 2. は Word 形式、報告書 6.、7. は Excel 形式である。その他はすべて Google フォームによる報告だった。

	Document name	
	Link	Done by (who will answer)
1	Overall Project Evaluation Form for Students	
	https://forms.gle/vPRdoMv8w6qVLfuf8	Students
2	Overall Project Evaluation Form for Coordinators	
	Word 形式	Coordinators
3	Personnel Database	
	https://forms.gle/AguyZQoPes5B3aBj7	Coordinators
4	Student Database & Blog Address Submission	
	https://forms.gle/FTkpFgD1ESHcdN3V9	Coordinator of sending university
5	Student Teacher Performance Evaluation Form	
	http://bit.ly/2RyXDoM	Coordinator of receiving university
6	Rubric for Evaluation the Performance of Partner Universities in Implementing SEA Teacher Project	
	Excel 形式	Coordinators
7	Blog evaluation	
	Excel 形式	Coordinator of receiving university

11. BEVI 分析

パイロットプログラムの全参加学生を対象に、実習前・後の計 2 回、BEVI を実施した。BEVI は Beliefs, Events, and Values Inventory の略で、留学の学習成果を客観的に測定するための心理分析テストである。17 カテゴリーのうち、下記に着目し分析を行った。

プログラム満足度

- ☐ 全体比較(最も変化が「あった」もしくは「なかった」カテゴリー)
- ☐ トータル高／低スコア者の背景、プロフィール(どのような学生が参加に適しているか)
- ☐ 異文化受容性の変化

プログラム満足度	プログラム満足度が高いまたは非常に高いと回答した割合は、実施前・後ともに 70% を越えた。満足度によるプロフィールデータ Aggregate Profile by Satisfaction を分析すると、フルスケールスコア下位 30% 集団と上位 30% 集団において、それぞれにスコアパーセンタイルが上昇したスケールが多数みられ、特に「(3) Needs Fulfillment／高」「(5) Basic Openness／高」「(7)
----------	--

	Basic Determinism／低」「(11)Self Awareness／高」「(15)Sociocultural Openness／高」「(16)Ecological Resonance／高」の 6 スケールでは、下位・上位両集団ともに顕著なスコア上昇が確認された。 この結果により、当プログラムの前後で、満足度によるプロファイルは、「経験、欲求、感情、思考においてオープンで正直である傾向(3、5)、自己の複雑性を受け入れ、同時に他者の複雑性をも許容する傾向(11)、文化、経済、教育、環境、ジェンダー、国際関係、政治に関する様々な行動、政策、実践について進歩的でオープンである傾向(15)、人、環境・サステナビリティ問題に強い関心を持つ傾向(16)」が強くなり、「人・結果は変わらないという決定論にとられる傾向(7)」が弱くなるということが読み取れる。言い換えると、元来、上記のような傾向を持つ人は、高い満足度で当プログラムに参加できる可能性を持っていると結論付けられる。
全体比較	全体プロファイル Aggregate Profile に注目すると、プログラムの前後でスコアパーセンタイルが最も大きく変化したスケールは、「(4)Identity Diffusion」で、最も変化しなかったスケールは、「(5)Sociocultural Openness」である。 「(4)Identity Diffusion／アイデンティティの危機、自分や将来に対する不安という自己同一性拡散」スケールスコアが大きく上昇していることは、当プログラムが「アイデンティティの確立、自分や将来に対する不安の払拭」に大きく影響したということ、一方「(5)Sociocultural Openness／文化、経済、教育、環境、ジェンダー、国際関係、政治に関する様々な行動、政策、実践について進歩的、オープンである」スケールスコアの変化がなかったことは、当プログラムがこれに影響していないことを示している。ただし、ここで変化のなかった「(5)Sociocultural Openness」は、実施前においても、80%を越え、もとより十分に高い数値であったことも加えておく。
トータル高／低スコア者	今回の実習参加学生の場合、高トータルスコア集団は「(5)Basic Openness」、「(3)Needs Fulfillment」、「(11)Self Awareness」、「(10)Emotional Attunement」が他者より高く、「(14)Gender Traditionalism」、「(7)Basic Determinism」、「(13)Religious Traditionalism」、「(6)Self Certitude」が他者より低い。つまり「ジェンダー的伝統主義(14)、人・結果は変わらないという決定論(7)、宗教的伝統主義(11)の傾向が強く、自分に対する確信が強い(6)」という特徴を有する学生よりも、「基本的な思考、感情、欲求について、オープンで正直(3、5)であり、自己の複雑性を受け入れ、同時に他者の複雑性をも許容(11)することができ、さらに、豊かな感受性、社交性を有し、親和的で感情表現を大切にする(10)」学生が本プログラムに適する傾向があったといえる。
異文化受容性	「15. Sociocultural Openness」、「16. Ecological Resonance」、「17. Global Resonance」に注目して、分布の累積を比較したところ、総じて下位デシルからのシフトアップしていることが確認できた。これらの結果は、本プログラムを通してその前後で「異文化受容性が高まった(強くなった)」と結論付ける有力な材料である。

12. 実習後 学生アンケート・帰国報告会(抜粋)

- ☐ 各国の指導方法の違いを知ること、授業の組み立て方や教え方の幅が広がった。
- ☐ 実習国だけでなく、他国の参加者と実習することで、異文化体験になった。
- ☐ 教員としての資質や指導力、語学、国際人としてのふるまいについて考えるきっかけになった。
- ☐ 今後の進路における選択肢の幅が広がった。更なる留学に興味をもった。
- ☐ 自分に自信をもつことができた。
- ☐ 相手に伝わる単語の選び方など、英語を使ったコミュニケーションのトレーニングになった。
- ☐ 様々な宗教観について知ることができた。
- ☐ 海外で、自国がどのように受け入れられているか知って誇らしかった。
- ☐ 大きな組織の中でたくさんの人との報告、連絡、相談を滞りなく行う重要さを知った。
- ☐ 教員という職業の厳しさを実感した。
- ☐ 各国の「教員職」の社会的地位について知った。
- ☐ 一期生が先輩として、次期生に情報や体験談を伝えるプラットフォームを作してほしい。

13. 実習後所管 附属坂戸高校(受入実習校)

- ☐ 実施して良かった。今回くらいの実施期間(2-3週間)なら、また実施可能。実施前消極的だった田村校長先生からも「担当教員だけでなく、留学に興味をもった学生があるなど、多岐な刺激になった。今後も機会があればぜひ協力したい」とのコメントがあった。
- ☐ 附属坂戸高校生、教員ともに良い影響を与えたと思う。英語が不安だと話していた教員も、積極的に英語で「滴下(てきか:液体の試薬を少量ずつ加えること)」の説明を行うなど、今回のSTプログラムは教員にとっても有意義であったと思われる。高校生は実習内容をすべて理解しているとは思えないが、留学や海外に興味をもつなどの影響があった。
- ☐ 受入校の英語力は英検2級程度以上あれば良いと思う。(附属坂戸高校は一般校としては特殊だが、インターナショナルスクールではない学校での実施に意味があった) 今後はぜひ他校、特に国際教育・グローバル教育に力をいれている学校の参加も促したい。
- ☐ 機会がありMEXTのWWL担当者にSTの写真を見せたところ、絶賛された。教員養成、ネットワーク構築などに興味があるWWL採択校に提案するべき。
- ☐ 附属坂戸高校・地歴担当の教員からも「SEA-Teacherプログラム自体は、附属学校だけではなく日本にとってもかなり良いインパクト(グローバル教育に関して)を持つと思う。外部に成果発表する価値があるのでは？」とのコメントがあった。

(別紙:Tsuku Comm 掲載記事)

14. その他

① 実習中のコロナウイルス対策

2020 年に流行したコロナウイルス感染予防のため、手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク、換気などに留意するほか、受入学生に対しては毎日朝夕 2 回体温を測定した。次年度以降は、こうした感染症が発生しない限り、体温測定は不要の予定。

② 経費

LoA により、受入学生の宿泊費(布団レンタル費、学生寮)、国内移動費(空港～学校往復)を受入校(CRICED 予算(運営費交付金))が負担した。

項 目	金 額 (円)
準備打合(Evaluation meeting 出席)、下見出張費	455,574
アテンド出張費(職員) 空港送迎、坂戸高校～つくばキャンパス	25,370
アテンド出張費(短期雇用学生) 空港送迎、坂戸高校～東京キャンパス、坂戸高校～つくばキャンパス	26,840
実習モニタリング費	166,333
受入学生宿泊費(布団レンタル含む)	158,922
受入学生交通(空港往復)	36,000
Excursion バス借り上げ費*	84,500
*Excursion は AIMS プログラムと合同実施。Welcome party と Fairwell party も合同とし、費用は AIMS プログラム担当部局(グローバルコモンズ)と折半した。その本プログラム負担分。	
短期雇用	25,925
受入校謝金(物納)	193,473
VISA 書類送付費	17,469
合計	1,190,406

15. 今後の課題・提案、所管(ロジスティクス)

派遣学生	☐ 派遣学生の選考には、成績評価や所属学部、教員志望の如何だけでなく、実習目的の理解・認識、海外渡航経験も重視してはどうか。特に渡航経験については、住環境が現地の学生寮のため、慣れていない学生には不向きというアンケート結果があった。 ☐ 学生にプログラムの目的をよく理解してもらうため、説明会参加を応募必須条件としてはどうか。 ☐ 渡航が決定した段階で、学生自身に、所属支援室に連絡を取らせ、学生・支援室・プログラム担当者との連携をはかる。それにより奨学金、フライト、履修登録などのミスを防ぐ。 ☐ プログラム実習に抱き合わせた私事渡航厳禁であることを繰り返し伝える。万が一、従わない場合は取り直させるなど厳密に徹底する。 ☐ より渡航先に特化したオリエンテーションを求めるアンケート回答があった。各国別の基本的な入国・生活ガイドを渡航先決定時に配布してはどうか。また渡航先決定時、参加学生に各渡航先に関するレポートを作成させてはどうか。渡航先について自分で調べない受身
------	--

	の学生は不向きだと思われる。
受入学生	☐ 教育インターンを行うにあたり、少なくとも教職を履修している、もしくは指導案作成についての指導が必要。 ☐ 学生の英語力は TOEIC や TOEFL など、具体的な指標を提示してはどうか。 ☐ 各校ともに受入学生に対し、渡航前に 1 時間程度の Online ガイダンス・オリエンテーションを実施してはどうか。(プログラム目的、科目や単元、生活習慣など)今回、本学で受け入れた CLSU の学生は渡航前に文化・習慣・マナーについて 1 日セミナーを受けていた。その成果もあり、実習態度の評価が最も高かった。また同行では参加学生の保護者に対してもプログラムのガイダンスを実施したとのこと。 ☐ バディを設けてほしいというアンケート回答が多かった。
実施期間	☐ 予測不能な事態を考慮し、現地出国日は渡航から 29 日目としてはどうか。 ☐ 受入・派遣の時期をずらすと、対応しやすい。特に受入は、日本の教育実習の時期と一緒に行えば、受入学生と日本人教育実習生、双方にとって得るものが多いと思われる。逆に受入・派遣の時期が同時だと、大学が休暇の時期に行わざるを得ず、日本人学生との交流が少なくならざるを得ない。
実習	【アテンド】 ☐ 国際室課長から、空港送迎は不要ではないか？との指摘があった。 【フライト】 ☐ 渡航先担当者が空港で出迎え・送り出しを行うため、フライトの離発着時間を考慮するよう受入学生だけでなく、派遣学生にもアナウンスする。もしくは利用する便を指定してはどうか。 【バディ】 ☐ 学生によるバディをつける。アンケートによると坂戸、つくばを通じたバディが理想。 【WiFi】 ☐ 受入学生には、渡航前に繰り返し連絡したが eduroam を準備・利用した学生はおらず、バックアップ用に準備したゲストアカウントを利用した。(共同利用棟 D では criced203 の Wi-Fi、一の矢宿舎では宿舎のアカウントを利用) ☐ 受入学生がキャンパス外で使用する Wi-Fi については、無料 Wi-Fi スポットの検索方法を Pre-Departure Guide に記載した。学生によっては、自国出発前に、成田空港で受取れるように、予め SIM を手配していた学生もいた。なお UTSS 寮内では Wi-Fi が使用できず、授業の準備を行うのに不便だったというアンケート回答があった。 ☐ 派遣学生には、実習校のネット環境を伝えたが、現地の町中で使用するよう SIM カードのアナウンス、SIM フリー設定のリマインドをすると更に良いと思う。 【国内移動費】 ☐ 学生の負担は坂戸～東京および坂戸～つくばの国内移動費、約 1 万円弱である。アンケートにはこの移動費も本学で負担してほしいという回答があった。 【寮】 ☐ 坂戸実習の大浴場や個室なく広間を共有すること(雑魚寝)については、事前に写真や動画で通知していたため特に問題はなかった。坂戸の宿舎ではネット環境が整っていなかったことが唯一の懸念点だったというアンケート回答があった。つくば実習で利用した一の矢

	宿舎は近隣に食料品店がないこと、調理器具がないことが課題である。次回は坂戸からあらかじめ調理器具を借りる(郵送)、別の学生寮を利用するなど予め準備が必要。
BEVI	□ 今回に限り、BEVI 分析は国際室職員が担当した。次回以降は、担当教員があらかじめ、分析担当者を準備する旨、国際室課長から指摘があった。

備考：20 年度の 受入学生に医療機関を利用する学生はいなかった。

医療機関(つくばキャンパス)

【筑波大学保健管理センター <http://www.hokekan.tsukuba.ac.jp/>】

- ・学籍番号のない学生は緊急時のみ対応可。(基本的には不可)
- ・医師は全員英語対応可。
- ・曜日によって専門科が異なる。
- ・大学の保険管理センターでは紹介状のみの発行はできない。

【つくばメディカルセンター・筑波大学附属病院】

- ・両院ともに紹介状ない場合は、要・追加料金。

【竹園ファミリークリニック <http://www.tkznfcl.jp/>】

【つくばシティア内科クリニック <https://www.cityia.jp/>】

- ・英語対応可、・駅チカ
- ・海外旅行保険証を持参
- ・保険にもよるが、病院では全額自費で支払う。(手持ちがない場合等、誰が立替えるかなどまずは担当教員に相談すること)その後、学生自身が保険会社と手続きを行い、返金されることが多い。

16. 実施校別 今後の課題・提案、所管

KKU	本学で受け入れた KKU 学生に一人で授業ができない、無断外泊をする学生がいた。他校受入学生には BEVI やブログ作成を実施しない学生もいる。その他、モニタリング先で出会った KKU から派遣学生の実習の様子もあわせて考慮すると、派遣学生に対するオリエンテーション不足が窺えた。派遣先としても、実習校の指導員や生徒の英語力が不足し、実習には通訳が必要だったり、それにより手持無沙汰になってしまったりしたため、プログラムの実施目的を再度確認する必要があるのではないかと。
UPI	コーディネータが健康上の理由から、実施 1 ヶ月前に 1 ヶ月不在だった間、業務連絡や書類提出が大変滞った。代理担当の配置や、不在連絡があれ対応しやすかったと思う。在席時はこれまでのプログラム実施経験から、柔軟で信頼できる対応だった。実習中、担当者から実習の様子の動画(3 分)が届いた。次回は本学でも作成し、コーディネータ間で共有してはどうか。 https://www.youtube.com/watch?v=Z5cqKJeQiPA&feature=youtu.be
CLSU	学生寮は虫やネズミが出るなど、日本人学生にはハードルが高い。治安を考慮し、学生は自由に学外に出られなかったが、学内で生活が整えられること、課題が多いことなど、それほど不都合はなかった。プログラムへの取り組みが最も熱心であるため、真剣に教員を目

	指している学生に適している。
--	----------------

はじめに 海外教育実習の会議報告書: 人間系教育学域川口純先生(教育開発)

2016 年 10 月 12 日

Pre-service teacher exchange (SEA Teacher) in South East Asia 2nd Evaluation meeting

参加報告書

人間系 川口 純

・開催日: 2016 年 10 月 8 日(土)、9 日(日)

・場所: ジョグジャカルタ大学

・参加国(大学数): フィリピン(9 校)、タイ(10 校)、インドネシア(14 校)、
マレーシア(1 校)、日本(1 校)

・概要:

1. 各大学所属の学生(院生含む)を教育実習生として、国外大学へ派遣する。
2 大学で協定を締結するが、申請書は SEAMEO が取り纏め、調整する。
2. 期間は最低 4 週間(1 週目: 受け入れ大学での授業とガイダンス、2, 3 週目: 学校現場での教育実習の
実施、4 週目: 受け入れ大学での振り返り)
3. コスト負担: 受け入れ大学が宿舎を提供、他の費用(渡航費、食費等)は、全て実習生の個人負担
4. 単位は原則、認定されない(2 大学間で MOU を締結し、認定制度を確立することは可能)。
5. 今後、中国、韓国の大学にも参画を促進する予定

・個別聞き取り情報

1. タイの大学は日本から学生を受け入れる方に、フィリピンは日本に送り出す方に関心が高い傾向が確認される。インドネシアは両方。
2. 日本からの受け入れに関しては「日本語教師」、「数学教師」に関心が高い模様。日本への送り出しには各国とも「英語教師」を想定している模様。

・意義、メリット

1. 本学の学生にとっては、異文化の中で教育経験を積む事が出来、グローバル時代の教員としての能力、見識を高める良い機会となる。
2. アジアの学生はもちろん、参加大学の教員も日本の進んだ教授法を取り入れたいという思いが強く、国際教育協力の実践としても意義が高い。
3. 日本の大学はまだどこも参加していない。

・懸案事項

1. コストの負担(宿舎、人員)
2. 受け入れ校(小、中、高)とのニーズの整合性

写真



写真1. プログラムのパフレット



写真2. 2次隊(今夏に実施)のオリエンテーションの様子(マカサール大)



写真3. 今回の会議の様子

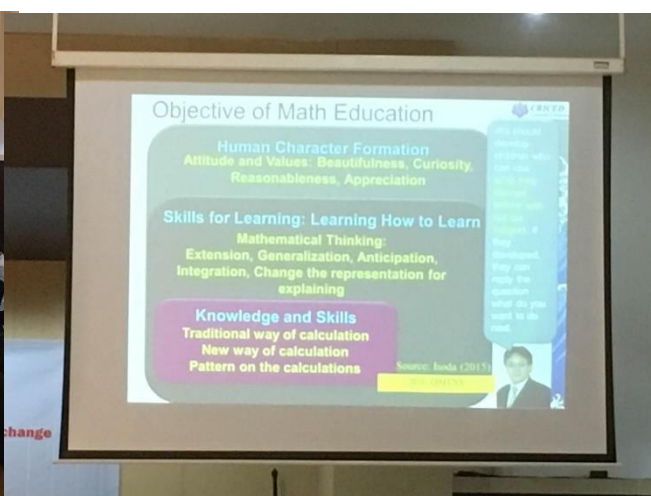


写真4. 「学生の教授能力向上」というテーマで CRICED のスライドが使用される

以上

5. SEA-Teacher パイロットプログラム概要 TSSP 開設届

別記様式 1

TSUKUBA Short-term Study Program 開設届

令和元年 9 月 27 日

筑波大学長 殿

実施組織の長

所属・職：教育学類 学類長

氏 名：藤田 晃之

TSUKUBA Short-term Study Program を以下のとおり開設しますので、お届けします。

1. プログラム名	日本語名：海外教育インターンシップ SEA-Teacher プログラム 英語名：International Education Internship SEA-Teacher program
2. 実施組織	教育学類
3. 実施責任者	所属・職：人間系・教授（教育学類/教育開発協力研究センター・センター長(国際室)） 氏 名：磯田 正美 電 話：029-853-2964 E-mail：isoda@criced.tsukuba.ac.jp
4. コーディネーター	所属・職： 氏 名： 同上 電 話： E-mail：
5. 事務担当者	所属・職：国際室 事務職員（CRICED 事務担当） 氏 名：竹中 絵美 電 話：029-853-7287 E-mail：criced@un.tsukuba.ac.jp
6. 組織内における承認状況	承認を得た会議名：教育学類教員会議 承認日：5月9日
7. 目的	英語で仕事をする力、授業を行う力、異文化を理解する力など、国際感覚を養う。
8. 概要	グローバル教育人材育成を視野に、各国における社会・教育事情や教師の業務を、学校で、実習形式で体験を通じて学ぶ。学生を、協定校コンケン大学（タイ）、インドネシア教育大学（インドネシア）、セントラルルソン州立大学（フィリピン）に筑波大学から派遣するとともに、同大学から筑波大学が受け入れる。受け入れ組織は、教育学類。派遣は、実施責任者の担当授業である教育学類科目、算数数学教材論（2単位）で派遣オリエンテーションを実施し、算数数学教材論演習（2単位）で派遣する。全学2年次以降の学生が対象となる。
9. 実施時期・期間	令和2年2月第二週目～3月第二週目 1か月間（予定）

10. 総時間数	—
11. 実施場所	筑波大学附属坂戸高等学校、筑波大学東京キャンパス、筑波大学つくばキャンパス
12. 使用言語	英語
13. 受講資格	コンケン大学（タイ）、インドネシア教育大学（インドネシア）、セントラルルゾン州立大学（フィリピン）のいずれかに在籍し、各校から推薦がある者。
14. 募集人員	各校2名ずつ計6名
15. 募集方法	コンケン大学（タイ）、インドネシア教育大学（インドネシア）、セントラルルゾン州立大学（フィリピン）各校からの推薦による。
16. 修了要件等	実施責任者に修了を許可された者。
17. 証明書発行の有無	修了証明書発行：有 成績証明書発行：無
18. 期待される効果	☐ 同じ人数が筑波から当該大学に派遣でき、海外教育現場における実習を実施 ☐ 文科省が実施している WWL における「教員養成課程の国際化」に先導的事業として貢献 ☐ 国内唯一の SEAMEO アフィリエイトメンバーとしての活動実施（教員養成課程の底上げ、東南アジアの教員の質向上）
19. 参加経費 （徴収する場合）	徴収無し
20. 滞在中の受講生の 宿泊施設	名 称：筑波大学附属坂戸高等学校 多目的交流棟 所 在 地：埼玉県坂戸市千代田 1-24-1 確保状況：仮予約 名 称：筑波大学宿泊施設 所 在 地：茨城県つくば市天王台 1-1-1 確保状況：予約前
21. 滞在中の在留資格	在留資格： 短期滞在 （※在留期間が90日以内の者にあつては「短期滞在」、90日を超える者は「文化活動」）
22. その他特記事項	参加者の国内移動費および宿泊費を国際室 CRICED 予算から支出する。

ANNEX: Schedule

Tentative Schedule

Date	Activity Plan	Venue
2020/FEB/ 2 nd week	Arrival	
2/10-2/12	APEC-Tsukuba International Conference XIII	Tokyo campus
2/13 AM	Lesson Study	elementary school attached to University of Tsukuba
2/13 PM- 2/14	SEAMEO-Tsukuba Symposium VIII	Tokyo campus
2/17-28	Teacher training at Sakado high school	Mr. Tatemoto (Sakado high school)
3/2-3/7	Lecture, presentation summary	Tsukuba campus
2020/MAR/ 2 nd week	Departure	

7.参加学生 1)募集告知ポスター



応募〆切
8/31

次世代人は英語で仕事する！ 海外教育インターンシップ

(学校で1か月実習)
SEA-teacher プログラム (東南アジア教育大臣機構 SEAMEO 主催)

小学校での英語活動の必修教科化や国際バカロレア校の拡大など、グローバルな人材が教育界でも求められています。在学中に、海外で教育インターンシップを体験してみませんか？

目 標 グローバル教育人材育成を視野に、各国における社会・教育事情、教師の業務を学校で実習形式で体験を通じて学ぶことにより、英語で仕事をする力、授業を行う力、異文化を理解する力など、国際感覚を養う。

対 象 全学群生(内容・教科等は実習先準拠)

実施時期 2020年1月～2月の1か月間(提携先大学が定める期間)

実習先 東南アジアの提携先大学および関連学校

実習内容

- * 現地教師の業務を実習し、授業を行います。
- * プログラムには東南アジアの他の国から来た学生も参加するため、交流多数！
- * 海外安全危機管理サービス(OSSMA)要加入
- * 渡航中はブログや動画で、実習の様子をシェアしてください。




動画チェック♪→

■ 奨学金制度あり！
(https://www.jasso.go.jp/ryugaku/tantoshu/study_a/short_term_h/2019.html)

■ 教員免許状必須の教職科目「教育実習」には該当しません。

■ 該当科目：講義(集中2日・演習形式：2単位) + 海外実習(1か月：2単位)

講義：教育学類 算数数学教材論(OB23141、2単位、集中2日)
海外実習：教育学類 算数数学教材論演習(OB23262、2単位、1か月)



講義(算数数学教材論・集中)では「ユニバーサル言語」としての算数教材を例に世界で注目される日本型授業の英語による指導案作り・模擬授業を行います。(実習オリエンテーションも含む)

2019年度の海外実習先(予定)



Thailand
Indonesia
Philippine

応募締切: 8月31日必着

応募書類・詳細は下記サイトをご確認ください。
定員6名。定員超過時は抽選有。

CRICED
<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/>

教育開発国際協力研究センター
担当教員: 磯田正美

応募・問い合わせ先:
criced@un.tsukuba.ac.jp
(件名に「東南アジア実習希望」と明記)



9.実習内容 各校の実習スケジュール:UPI

AGENDA
9th BATCH OF SEA-TEACHER PROJECT
UNIVERSITAS PENDIDIKAN INDONESIA
6 Feb - 5 Mar 2020 (29 Days)

Day/Date	Activity	PIC
Thu, 6 Feb	Arrival of Participants	OIER & Buddies
Fri, 7 Feb	• Welcoming Ceremony • Coordination with Mentor and School Coordinator • Campus orientation	OIER, Buddies, School Coordinator, Mentor
Sat - Sun, 8 - 9 Feb	Free Time	
Mon, 10 Feb	• School Orientation • Coordination with Cooperating Teacher	School Coordinator
Tue - Wed, 11 - 12 Feb	Observation & Teaching Assistant	
Thu - Fri, 13 - 14 Feb	Teaching Assistant & Teaching Practicum	
Sat, 15 Feb	Excursion	OIER & Buddies
Sun, 16 Feb	Free Time	
Mon - Fri, 17 - 21 Feb	Teaching Practicum	
Sat - Sun, 22 - 23 Feb	Free Time	
Mon - Fri, 24 - 28 Feb	Teaching Practicum	
Fri, 28 Feb (Afternoon)	Excursion	OIER & Buddies
Sat - Sun, 29 Feb - 1 Mar	Free time	
Mon, 2 Mar - 3 Mar	Teaching Practicum, Evaluation and Reflection	OIER, School Coordinator, Mentor
Tue, 4 Mar	Closing	OIER & Buddies
Thu, 5 Mar	Departure of Participant	OIER, Buddies, School Coordinator, Mentor

9. 実習内容 各校の実習スケジュール:KKU
1. Practicum School:

Demonstration School of Khon Kaen University (Moodindaeng)

Practicum Schedule

Week/Date	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					6 Feb 2020 Arriving at KK	7 Feb 2020 Orientation	8 Feb 2020 Free
Week 1 10-14 Feb 2020	9 Feb 2020 Day off	10-14 Feb 2020 Class observation					15 Feb 2020 Day off
Week 2 17-21 Feb 2020	16 Feb 2020 Day off	17-21 Feb 2020 Teacher Assistance					22 Feb 2020 Day off
Week 3 24-28 Feb 2020	23 日. 63 Teaching Plan	24-28 Feb 2020 Teacher Assistance/ Teaching (Suggest by Teacher mentor)					29 日. 63 Cultural Excursion
Week 4 2-5 Mar 2020	1 Mar 2020 Teaching Plan	2-4 Mar 2020 Teaching (Suggest by Teacher mentor)				5 Mar 2020 Meeting with IRDTP	6 Mar 2020 Leaving KK

9.実習内容 各校の実習スケジュール:CLSU



CENTRAL LUZON STATE UNIVERSITY

Science City of Muñoz, Nueva Ecija Philippines
Tel. No. (6344) 456-7210; Fax (6344) 456-7210
E-mail Address: ced@clsu.edu.ph, clsu@clsu.edu.ph
URL: <http://clsu.edu.ph>

ISO 9001:2015 CERTIFIED

College of Education

SCHEDULE OF ACTIVITIES SEA TEACHER PROJECT PILOT BATCH February 6 to March 6, 2020

WEEK 1	
Day 1 (February 6)	Arrival to the Philippines and Travel to CLSU
Day 2 (February 7)	Courtesy Call to CLSU Officials Orientation Registration at Office of Admissions CLSU Campus Tour
Day 3 (February 8)	Vicinity Familiarization (San Jose City and Science City of Munoz)
Day 4 (February 9)	Rest Day
WEEK 2	Teaching Assistantship, Immersion and Blog Conceptualization
Day 5 (February 10)	Flag Raising Orientation at DepEd-CLSU (Lab) Elementary School/University Science High School Classroom Observation
Day 6 to 9 (February 11-14)	Mentoring and Coaching: Teaching Assistantship and Immersion Classroom Teaching
Day 10 to 11 (February 15-16)	Off-Campus Educational Tour (Baguio City)
WEEK 3	Classroom Teaching and Blog Writing
Day 12 (February 17)	Classroom Teaching
Day 13 to 15 (February 18-20)	Classroom Teaching
Day 16 (February 21)	Classroom Teaching and Initial Visit and Observation by Supervisors
Day 17 (February 22)	Off Campus Educational Tour (Minalungao Nature Park/Cabanatuan City)
Day 18 (February 23)	Rest Day
WEEK 4	Classroom Teaching and Blog Writing
Day 19 to 22 (February 24-27)	Classroom Teaching
Day 23 (February 28)	Visit to Cooperating Schools at the Division of San Jose City and Munoz
Day 24 to 25 (February 29-March 1)	Rest Day
WEEK 5	Reflections and Farewell
Day 26 (March 2)	Classroom Teaching and Final Visit and Observation
Day 27 (March 3)	Classroom Teaching and Polishing of Blogs, Collection of Evaluation
Day 28 (March 4)	Farewell at Cooperating Schools/Farewell Tribute at CED
Day 29 (March 5)	Polishing of Blogs, Collection of Evaluation Instruments
Day 30 (March 6)	Departure to CLSU/Philippines

“Excellent service to humanity is our commitment.”

ACA.CED.YYY.S.001 (Revision No. 1; February 27, 2019)



9.実習内容 各校の実習スケジュール:筑波大学

2 月				
日	曜	坂戸高校 学校行事	SEA-Teacher 実習内容	実習場所
1	土			宿泊
2	日			
3	月	一般入試準備(6時間45分短縮授業)		
4	火	一般入試		
5	水	一般入試採点		
6	木	職員会議 3年次登校日(テスト返却等)	日本着(坂戸に移動)	坂戸
7	金	一般入試合否判定会議(15:40)	朝、全校歓迎会。各教科とミーティング	坂戸
8	土	2年次T-GAP	1年次との学習会(英語)10:40~12:30	坂戸
9	日		休み	坂戸泊
10	月	成績入力(13:00)	農と環境 I (13:15~15:05)	坂戸
11	火	建国記念日	休み	坂戸泊
12	水	3年成績会議(16:10) 合格発表		坂戸
13	木	研究大会準備 午後~ 火曜授業	SEAMEOシンポジウム	東京キャンパス
14	金	第22回総合学科研究大会 部活動禁止週間	研究大会で発表	坂戸
15	土		AM 研究大会に参加	坂戸
16	日		休み	坂戸泊
17	月	金曜授業	坂戸	坂戸泊
18	火		グローバルライフ(8:40~10:30)	坂戸
19	水	企画運営委員会	坂戸	坂戸泊
20	木	職員会議	坂戸	坂戸泊
21	金	学期末考査 主幹会議 県外居住者入学手続き	坂戸	坂戸泊
22	土		休み	坂戸泊
23	日	天皇誕生日	休み	坂戸泊
24	月	振替休日	休み	坂戸泊
25	火	学期末考査 教育課程検討委員会	坂戸	坂戸泊
26	水	学期末考査	坂戸	坂戸泊
27	木	学期末考査	UTSS cleaning, moveout farewell at UTSS Head to Tsukuba campus Lunch on bus Arrival at Tsukuba campus, UT, Ichinoya residence hall, move in orientation	坂戸 → つくば
28	金	県内居住者入学手続き	Orientation (by Dr. Nomura), support AIMS students, welcome party @ global village	つくば
29	土	卒業生と語る会	Excursion; Mt. Tsukuba, Kasumigaura Environmental Center, Aeon Tsukuba (attended by GC/ with AIMS members)	茨城県内
3 月				
1	日		Excursion; Kairakuen, Ibaraki Prefectural History Museum, Tomobe PA (attended by GC/ with AIMS members)	茨城県内
2	月		Excursion; Makabe, Ciberdyne, iias Tsukuba Discussion for AIMS presentation	つくば
3	火		A lecture and library tour (by prof. Isoda) Preparation support for AIMS presentation Support and observation of AIMS presentation (Summary, certification ceremony for AIMS) Farewell party @ global village	つくば
4	水	企画運営委員会	Preparation for summary presentation AM-1630 Summary presentation 1630-1800	つくば
5	木		Free time (1700 dormitory checkup)	フリー
6	金	予餞会	0520 Meeting up at No.35 Short stay house admin. Office 0540 Head to Tsukuba center by taxi (Meet up taxi at bus stop, "Ichinoya shukusha mae".) 0620 Head to Narita airport by highway bus Departure from Narita airport	

附属学校
めぐり

国内外の「つながり」がもたらす 新しい学び

筑波大学には11の附属学校があり、それぞれの分野でわが国の教育をリードしています。各学校のユニークな先生や授業、行事などの活動を紹介します。

筑波大学附属坂戸高等学校



■様々な体験の機会を提供する

研究大会は2日間の日程で行われ、授業公開、生徒による海外体験の報告、参加者の勉強会、生徒たちの研究発表などで構成されます。全国各地の高校の教員約80人に加えて、生徒の保護者なども訪れます。授業公開では、「先生の講義を聞く」という座学スタイルの一つもありません。科目によっては、数人でディスカッションをするようなものもあれば、実習で各自が作業を行うものもあります。それぞれの授業で、ワークシートやホワイトボードを使うなど、自分の意見を明確にしたり、多様な具体的な体験が得られるような、ユニークな工夫が凝らされています。見学する他校の教員の眼差しも真剣です。

体育館のステージでは、インドネシアで、森林保全に関するフィールドワークや1年間の留学を体験してきた生徒たちの報告が行われます。日頃から人前で発表することには慣れているとはいえ、現地で活動や交流の成果を自分の言葉で述べる様子は、とても堂々としています。東南アジアからの教育実習生を受け入れるSEA-teacher Programに参加している大学生たちや、台湾とタイからの留学生による日本語での発表などもあり、校内でもグローバルな体験ができる環境が充実していることがうかがわれます。

午後からは3つの分科会に分かれ、参加した教員同士で、取り組み事例の報告やそれぞれが抱える課題について、忌憚のない意見交換が行われました。課題解決に向けたヒン

トを得るだけでなく、仲間を見つける場にもなっています。

■農業高校から国際教育へ

附属坂戸高等学校(筑坂)は、もともと地域の農業高校でしたが、1994年に全国初の総合学舎を開設して以来、モデル校として新しい教育の構築を目指してきました。農業や工業といった専門科目は今も残っていますが、産業技術そのものを学ぶのではなく、農業や工業を通して学ぶ、といった考え方に変わりました。また、国際教育にも力を入れ、2014年にはSGH指定校、2017年には国際バカロレア認定校となり、さらに今年度はWWLコンソーシアム構築支援事業実施協

WWL研究大会・総合学舎研究大会

授業方法や生徒の学びの成果を紹介するために毎年開催している研究大会。SGH(スーパーグローバル・ハイスクール)事業の後継として新たに採択されたWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業への取り組みを報告する機会とも位置付け、今回は「第1回WWL研究大会・第23回総合学舎研究大会」として実施した。全国から、総合学舎教育や国際教育に取り組む高校教員が参加し、活発な意見交換や交流が行われる。



点校となっています。

国際教育へと舵を切った最初は、1997年の韓国での校外学習です。その後、オーストラリア、台湾、インドネシア、カナダなどの国々で活動や交流を続けてきました。教員にとっても試行錯誤の繰り返しですが、現地のリアルに触れる体験をきっかけに、想像力やコミュニケーション能力が高まり、さらに、社会課題への関心を深めたり、留学を決める生徒も多く、教育としての成果には手応えがあります。こういった取り組みの中で得た知見を他校にも参考にしてもらうというのが、研究大会の目的です。筑坂だからこその部分もありますが、ほとんどは、どの学校でも応用できるもの。常連の参加者や参加校がいるというの納得です。

■モヤモヤが晴れる筑坂の学び

高校進学の際に筑坂を選ぶ生徒たちの中には、最初からここで学びたいという強い意思を持っている者ももちろんいますが、何かにチャレンジすることで、ずっと感じていた物足りなさが解消できるのではないかと期待して入学する者も少なくありません。筑坂での学びには、実際にものづくりをしたり、現地へ行ったという体験の機会が盛りだくさん。そこか



ら得られる気づきが、モヤモヤを晴らすきっかけになります。そういった多様な体験を通して、生徒たちは、いろいろなことを考え、自分のやりたいことを見つめたり、海外へ目を向けたりしていきます。

大学受験を考えると、多様化・個別化を指向する総合学舎は非効率的で、普通科高校や中高一貫校の方が、カリキュラムとしては有利であるというのが一般的な見方かもしれません。しかし高校時代にこれだけの体験ができるのは、ある意味とても「お得」です。多少、回り道になったとしても、この時期にしかできない豊かな体験は、視野を広げ、将来の可能性を開く糧になることでしょう。

■「つながり」が開く世界への扉

多様な学びの体験の場を生み出す鍵は「つながり」です。各地の大学や自治体など、国内外のいろいろなつながりがなければ、筑坂での学びは成立しません。単に生徒を海外へ送り出すだけでなく、現地の人々との交流も含めた実践的な活動をアレンジしたり、留学生やSEA-teacherの受け入れ、国内での校外学習など、学校の中だけで完結しないことが大切。準備は大変ですが、たくさんのつながりを通して、生徒たちは代え難い経験と学

びを得るのです。

そうは言っても、すべての生徒にこういった体験の場が十分に与えられるというのは、なかなか難しいことです。ですから、授業公開においても、自分の日常生活と世界がつながっていることが意識できるような内容や構成が、数多く提案されます。つながりを広げていくためには手間も時間も惜しまない。筑坂の教員たちのアイデアや試みが、全国の高校にも伝わって展開され、さらに新しいつながりを生み出す。この研究大会は、そんな好循環の起点になっています。



副校長(右)と研究大会を企画した建元副校長幹政

Engage Today. Empower Tomorrow.

深澤 孝之 副校長

「Engage Today. Empower Tomorrow.」は本校の教育理念です。本校は未来を拓く当事者として生きていくことのできる人材の育成を目指しています。そのために高校生である今の瞬間にも社会とのつながりを意識できるように、様々な学校外の組織とつながりをつくり教育活動を行っています。当然学校が用意できるつながりは限られますの

で、生徒達には自分でつながりを構築していくことが必要であることも伝えています。本校の研究大会では生徒の活動報告が数多く紹介されますが、その多くに生徒達自身が開拓したつながりとそのつながりによって学ぶことができた成果が表現されています。「明日をつくる。今を生きる。」そんな思いを教員も、生徒も大切にしている学校です。



筑波大学
University of Tsukuba